

はじめに

当センターは、本県の保健行政や環境行政を科学的・技術的に支える中核機関として、衛生・環境に係る「調査研究」、「試験・検査・測定」、「研修・指導・学習」、および「情報の収集・解析・提供」の4つの役割を軸に業務を推進しています。

特に、令和2年以降の新型コロナウイルス感染拡大への対応は、迅速性や規模などかつてないレベルでの挑戦となり、検査を担当する微生物部門のみならずセンター内外からの応援を得ながら、増大する検査需要に応え続けてきました。さらに、変異株監視のためのスクリーニング検査、全ゲノム解析の開始等、刻々と変化する状況にその都度対応可能な検査体制の構築に努めています。

このような中でも、調査研究については、外部評価委員による研究課題評価の結果や意見を踏まえ県民や行政ニーズに即したテーマの創出に努めており、令和2年度には新たに「新型コロナウイルス感染症疑い検体における他の呼吸器ウイルス検出状況について」「福井県におけるポリオキシエチレンアルキルエーテルの実態把握と環境負荷低減技術に関する研究」等に着手しました。

今後とも、県民の健康と生活環境を守るための試験研究機関および健康危機管理対応機関として、保健所等関係機関とも緊密な連携を図り、県民および行政の新たなニーズに的確に応えていく所存です。

このたび、令和2年度の業務内容および調査研究の成果を、「福井県衛生環境研究センター年報（第19巻）」としてとりまとめました。「Ⅱ 業務報告」では、部・室ごとに令和2年度の業務実績を掲載し、また、「Ⅲ 調査研究」および「Ⅳ 発表抄録」では、これまでに実施した調査研究の結果および学会等での発表の抄録等を掲載しています。

こうした成果については、ホームページや広報誌などを通じて分かりやすく情報発信するとともに、一般県民や小中学生向けの衛生・環境教室等を積極的に開催し、当センターの業務に対する認識と理解を深めていただけるように努めてまいりますので、引き続き御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。

令和3年12月

福井県衛生環境研究センター所長 村田 健